

## 郡町（在方町）<sup>つゆぐち</sup>辻口について

湯 藤 章 皓

### 1 はじめに

三好郡東井川村辻口（現・三好市井川町）は池田大西町とともに江戸時代から商業の盛んな町であった。8kmしか離れていない隣り合わせの場所に2つの町が発達したのはなぜか、辻口の成立を中心にその理由を探してみたい。

### 2 徳島藩の商業政策

徳島藩は、市中と郷町でのみ商業を許可し、郡町（在方町）における商業を禁止した。<sup>1</sup> 享保9年(1724)・延享元年(1744)・宝暦7年(1757)・寛政3年(1791)と4度にわたって、東井ノ川村の庄屋・五人組は郡代手代宛に商売を続けさせて欲しいという「嘆願書」《古郷家文書<sup>2</sup>》を提出した。「嘆願書」に辻口の商業発展の要因と現状が書かれている。主として享保9年(1724)の文書を参考に論を進めたい。（以下「□□」の部分は享保9年(1724)「乍恐奉願御訴訟之事」《古郷家文書》による。）

### 3 辻口の自然的位置

辻口は井内谷川が吉野川に合流する場所に立地する溪口集落である。享保9年(1724)既に「四国之真中程ニ相当」「三好郡真中ニて御座候」との認識を示している。

辻の浜の渡しは吉野川水運の川湊であった。吉野川の上流から人と物資は平田船で撫養の港へ、ここから上方へと川の道は続いていた。

後背地である祖谷山・井内谷から辻・浜の渡しを渡って昼間へ、東山峠を越えて讃岐へ、そして瀬戸内海を渡って本州へと続く、まさに交通の要衝であった。

### 4 徳島藩の領民政策

蜂須賀治世下の初期においては他国から来る人を拒まない様子が見て取れる。<sup>3</sup> 辻においても国内・外から多くの商人が入りこんでいた。彼らは国元において最早生活の基盤となる土地・屋敷などを持たない人々であった。

### 5 辻口の成立

先年までは「市立」等も行う場所であったが、年々商売をするものが増え、「市立ニ不及様ニ罷成」、それより「市日と申差別」はなくなり「町成」をしていたと言う。

「市立」とは月に何度か市を立てることである。天正13年(1585)徳島に入部した蜂須賀氏は、慶長10年(1605)蜂庵の名前で阿波郡市場町に対して「月三日市」許可の「判形」を与えている。<sup>4</sup> 辻口も「市」を立てることを許可されていたと推察できるのである。

### 6 町成りした辻口

「町成」した辻口は「度々之御検地ニ道ハ、杯も町同前ニ広く御引置」とある。時代は下るが天保9年(1838)池田大西町の伊予街道は2間1尺（約3,82m）<sup>5</sup>で整備されている。辻口もまた同じ道幅であったのだろうか。

「山岡平右衛門様御郡御奉行御勤」の砌、即ち17世紀後半、辻口の商人は商売人としての「御証文と御手札」を「下置」かれていた。一方で、商人は「御見懸銀」を召し上げられていた。藩の郡町における商売禁止の政策に反し、郡町辻口は実質的に「町」として整

備され、商人としての「御証文・御手札」を与えられ「御見懸銀」を納めていた

#### 7 辻口の商店の役割

ア 鍛冶炭の仲買業が成立していた。

イ 「山分ニ而ハ口過」のため「女・童子」等の弱者が「炭・薪・篠・萱・杭木・縄・筵・茶・たばこ・油物・竹・かつら・さわらびな・わさひ・せんまい・山いも之類」を辻口の商店に預け、「四五分替之内外宛」用意ができると、「舛物、塩噌、小間物」ニ替えて生活をしたと述べている。ここには物々交換から貨幣経済へと移行する農村の姿が書かれている。

#### 8 収税と辻口

辻口には徴税機能があった。祖谷惣谷・井内谷などからの順路で御年貢・諸懸り物は残らず辻口へ持ちし出し上納している。

商品の売買に対してかかる税について「先年ハ辻口と申 他国並御国中共商売物之御口銀被為召上候所」であった。御国商売物御口銀は御赦免になったが、他国荷物は「今以辻口ニ而御口銀被為召上候」とある。

御国商売物の御口銀が廃止になってからは「佐野御分一所へ御加へ一所ニ請所ニ被為仰付候」とある。佐野御番所が公認されたのは寛文 4 年(1664)、<sup>7</sup>この頃まで辻口においても、私的に御口銀が収納されていたと思われる。

また、今以て辻口では振売商人からは一人当たり「棒銭貳分五厘」を召し上げている。

#### 9 おわりに

辻口は中世から井内谷川の溪口に自然発生的に市が立ち、蜂須賀氏入部の初期の混乱期を生き延び、やがて商店街が形成され、享保 9 年(1724)には郷町・池田大西町に対抗するまでに町成りをしてきた。

辻口における商業之発展をみると藩行政との戦いであった。住民の貨幣経済化の流れは行政の力で阻止できるものではなかったことを物語っている。

今後も近世の都市成立の歩みを研究していきたいと考えている。

#### 註

- 1 三好昭一郎『喜寿記念日本史論集 第1部 近世地方都市成立史の研究』モウラ 2009
- 2 三好市教育委員会蔵
- 3 市場町史編纂委員会『町制 40 周年記念出版 市場町史 史料編』市場町長 平成 8 年 p83
- 4 前掲書 p83
- 5 三好郷土史研究会『街道と里道調査報告集 三好の古道』三好郷土史研究会 平成 24 年 p4
- 6 山岡平右衛門真成 350 石 承応元年(1652)召出 元禄 12 年(1699)没 大北郡御奉行【『徳島藩士譜』】
- 7 三好郡役所『三好郡志』(大正 12 年)復刻版 名著出版 昭和 47 年 p560